

今回の「東京研修」で、私が得に学ぶことが出来たと思う体験は、「ディレクトフォース・企業訪問研修」と、「企業大学訪問」である。

前者では、三菱商事本社にて、社員の方々や、元社員の方々と会話をする事が出来た。その中でたくさんの海外での経験に基づいた「高校一年生」の私達に将来海外で活躍できるためには、今何をすべきかについて聞くことが出来た。その中でキーワードになっていたのは、「英語力」についてである。また、それを発展させ、「外国人とのコミュニケーションをとる時にどのような態度で臨めばよいのか」ということだと思った。

話を聞いていて、必ず「世界とつながるには、英語は大切だ」と仰っていた。確かにグローバル化が進んでいく社会に遅れないためには必要だと思う。世界の中で日本はとても小さい。その事実は変えることはできない。そしたら、日本を世界に売り込んでいかなければならない。その時、英語を話さなくてはどの役に立てない。この話を聞き、今のうちに英語を勉強しなくてはならないといわれる理由を再確認することが出来た。

もし、英語を習得したとしよう。習得しただけで「日本」の戦力となれるのだろうか？いや、できない。相手の気持ちを捕えられるような会話術が必要になってくる。相手は外国人ということは、日本人との文化や考え方は違ってくる。その中で日本人相手の時の対応で外国人に通じはしない。そこで大切になってくることは、「相手と自分の違いを認めて、自分の事を知ってもらう」ということである。それは今からもできることであって、例えばクラスであまり話したことがない人に話しかけてみるなど、自分はどういう人かさらけ出してみる。そこで、相手の反応を見て相手のレベルを把握しながら話を広げていく。また、自分から相手の土俵に踏み込んでいく。そうすることで新しい価値観を知ることができるとともに、人の輪が広がっていくのだと思う。

これを、仕事に置き換えると、各々がどのような人か分かってくるため、チームでの仕事のパフォーマンスが上がることに繋がってくる。

しばしば日本人は、「自己主張が少ない」と言われるが、世界を日本が引っ張っていくには、「自己主張をしなくてはいけない」という、世界の最前線で活躍する人たちの、これからの世代である私達に向けた言葉はとても重いように感じられた。

また、何事においても通用する目標設定の仕方も学ぶことが出来た。まず、目標を持つと漠然とした感覚がなくなれたため、以前よりも力を発揮しやすくなる。だが、その目標が漠然としていると、逆効果になってしまう。よって、目標という最終的なゴールを意識するよりも、そこに到達するまでのたくさんある手段から一つずつ選んでいき、目標に向かうまでの細かい「マップ」が必要になってくる。また、最初に作った「マップ」に固執しすぎるのではなくトライアンドエラーで、自分に合わないと思ったらまた違う「ルート」を試してみることが大切になってくる。

だが、ただ単に「できない」からといってすぐにあきらめてはいけない。そのようなタイミングを見極める力をつけるためにじっくり考えて過ごすようにしたい。

世界の中の日本をより優位に立たせるには、今と、これからを改善していかなくてはならない。だが、過去の先人たちが立ててきた功績も同時に振り返らなくてはならない。

最後に、先人たちが培ってきた外国からの信頼を継続して得られるために日本人の良さである「礼儀、勤勉さ、正直さ、相手の事を考える事」などを我々若者が引き継いでいかななくてははいけない。そのために、もっと社会に目を向けて、自分の身に付けていかなく絵はならないと思う。また、自分の知識は正しいのか再確認しなくてはならない。外国に好かれるだけが目標なのではなく、伝統を引き継ぐのが目標になってくるのではないだろうか。

次に「企業大学訪問」についてである。私たちの班は防衛相の「市ヶ谷基地」の中にある航空自衛隊の広報室に行ってきた。

私たちの班には、「パイロットになりたい人」、「航空関係の技術者になりたい人」、「航空管制官になりたい人」が集まっていて、それぞれの職種に分かれて話を聞くことが出来た。私はパイロットの方とお話することが出来た。

私は今、高校卒業後の進路選択で「航空学生」に進むか「大学進学」で悩んでいて、そのことについて聞くことが出来た。パイロットになるには3つの入り口があり「航空学生」「防衛大」「一般幹部候補生」である。そして、パイロット全体の大体の割合では、上記の順に7対2対1の割合になるそうである。そして、大学を卒業したからと言って優遇されるわけでもないようである。

次に、話をしている中で、私は「パイロットになるには今何を頑張ればよいのか？」という質問をした。その回答は、①パイロットは空で独りよがり（自己主張が激しくなる）になってしまうことがある。そうすると、作戦を台無しにしてしまう恐れがあるため、周りの人との協調性が必要になってくる。これは、パイロットになる時の適性検査でわかるためにも必要になってくるものであるようだ。

②体を健康に保つということ。パイロットは定期的に「航空身体検査」という身体検査を受けなくてはならない。もしこの身体検査に引っかかってしまうと、すぐにパイロットの資格をはく奪されてしまう。この身体検査をパスするために健康体でいなければならない。そのために、メジャーな例からいうと、「視力を落とさない」ことなど、「体力を落とさないこと」などが挙げられる。またその中で、運動などをするうえで、自分にストイック

にならなくてはならない。よって、「自制心を持つ」必要がある。

③また、最後に「今を一生懸命に生きる」というのが挙げられた。誰もが知っている通り、パイロットになれるのはほんの一握りの人間である。パイロットになれた場合、過酷な仕事の為常に自分の心と体との戦いになってくる。また、もしパイロットになれなかったとしても。その後の人生において大切になってくる。

という①～③のようなものであった。今まで自分が持っていたイメージよりもハードな世界だということが伝わってきた。③の回答が特に心を打って、私のようにパイロットになりたい人はたくさんいて、試験で大半の人は落ちてしまう。その中に自分はあるのかもしれないし、いないのかもしれない。だが、やはり「今を一生懸命生きる」ということはどんな人生の選択をとっても大切になってくると思う。また今の自分に重ねて言えば、高校に入学しただけで気が緩んでしまっていた自分を引き締めなければならぬと思った。

今回の東京研修を通して。今自分がやらなくてはならないことは、考えている以上にたくさんあり、そして難しい問題ばかりであると思う。だが、そこで行動を止めてしまうのは今までの自分と何一つ変わらない。それらを解決することが出来たら申し分無いのだが、解決するまでいかなくとも、自分で解決策を考えるなり、アプローチをかけなくてはならないと思う。その態度ひとつで自分の将来に大きく関係してくると思う。そして、大きな目標に向けてのひとつひとつの過程を大切にしながら「今を一生懸命生きたい」と思う。そして、少しずついいからボンヤリとしか考えることができなかつた自分の未来に真正面から誠実にとらえていくことが出来れば良いと思う。